

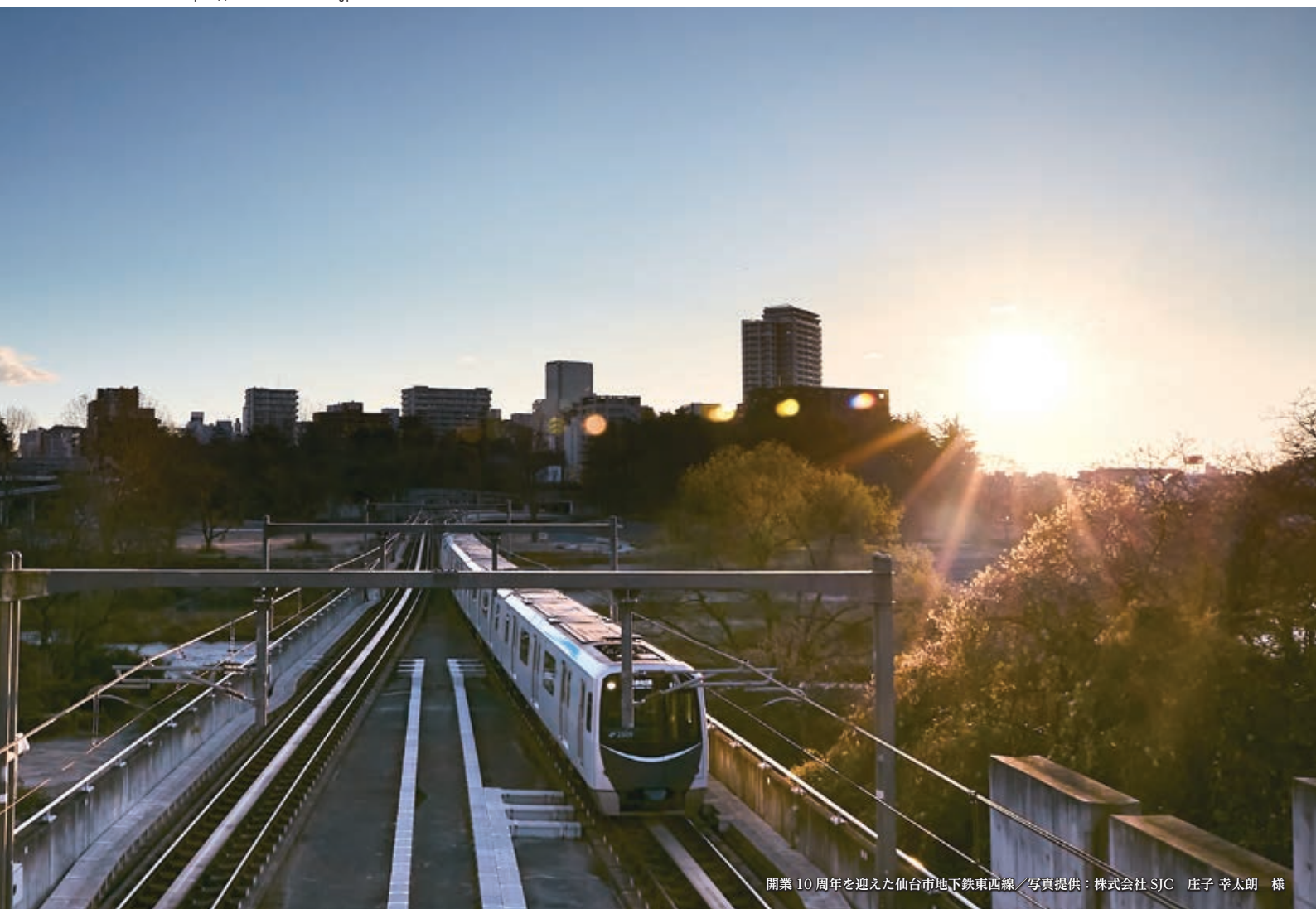


No.59

2026 April
[MISA会報 第59号]

- 賀詞交歓会
- MISA会員向けアンケート調査結果
- 委員会活動報告
- 新入会員紹介

■発行/一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 仙台市青葉区上杉1-6-10 EARTH BLUE 仙台勾当台5F 【TEL】022 (217) 3023 【FAX】022 (217) 3055 【E-mail】misa@misa.or.jp
■URL/<https://www.misa.or.jp> ■企画・編集/広報委員会 ■印刷/ハリウコミュニケーションズ株式会社



令和8年賀詞交歓会開催

会長挨拶

宮城県情報サービス産業協会（MISA）会長 阿部 嘉男



皆様、明けましておめでとうございます。宮城県情報サービス産業協会（MISA）会長の阿部でございます。

本日は令和8年の賀詞交歓会に多数ご出席いただき、誠にありがとうございます。また、宮城県、仙台市、東北経済産業局をはじめとする関係機関の皆様にもご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。さらに、日頃より協会活動にご理解とご協力をいただいている会員の皆様に、このように多くお集まりいただきましたことに深く感謝申し上げます。

【不安定な世界情勢と加速する技術革新】

世界情勢に目を向けますと、ウクライナとロシアの戦争、ガザ地区を巡る紛争など、依然として不安定な状況が続いております。また各国の政治動向も大きく変化しており、国際社会は先行きの見通しが難しい時代に入っていると感じております。日本国内においても政治や経済の環境は大きく動いており、社会全体が大きな変化の中にあります。

そのような中、私たちのIT業界では急速な技術革新が進んでいます。数年前から生成AIが注目を集め、社会やビジネスのあり方を変えつつあります。さらに最近では、AIとロボット技術を融合した「フィジカルAI」と呼ばれる分野も登場し、新たな産業の可能性が広がり始めています。デジタル技術の進展は今後さらに加速していくと考えられ、社会におけるICTの役割は一層大きくなっていくと感じています。

【地域DXの推進とICT産業への期待】

宮城県では「みやぎDX推進ポリシー」が策定され、単なるシステム化や業務効率化にとどまらず、制度や組織、文化の変革を含めたDXの推進が進められています。

また仙台市でも「仙台市DX推進計画」が策定され、「フルデジタルの市役所」を目指した取り組みが進められています。「人」と「近く・濃く」ふれあう行政サービスをデジタルの力で実現するという方向性は、ICT産業への期待の大きさを示すものと言えるでしょう。

このような変化の時代において、私たちIT業界が担

う役割と責任はますます重要になっています。

【創立30周年を迎えるMISAと第10次中期計画】

MISAはこれまで「ICTを地域の力に」という合言葉のもと、地域社会の発展に貢献する活動を続けてまいりました。そして本年、当協会は創立30周年という節目を迎えます。1996年の設立以来、多くの会員企業や関係機関の皆様のご支援とご協力によって今日まで歩みを重ねてまいりました。これまで協会の発展に尽力された諸先輩方の中には、すでに亡くなられた方もいらっしゃいますが、その功績に対し、この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

令和8年度は第10次中期計画の初年度となります。今後の重点方針として、第一に「人材の確保と教育体制の再構築」、第二に「生成AIをはじめとする先端技術の活用」、第三に「ICTによる地域課題への貢献と連携強化」の三点を掲げ、取り組みを進めてまいります。人材不足が大きな課題となる中、会員企業の皆様と連携しながら人材育成の取り組みを強化するとともに、先端技術の活用を通じて地域社会の発展に貢献していきたいと考えています。

【次の時代へ向けた挑戦】

現在、30周年記念事業の準備も進めております。これまでの歩みを振り返るとともに、次世代に向けた新たな価値を創造する機会としたいと考えています。これまで続けてきた取り組みの中で発展させるべきものはさらに強化し、見直すべきものは整理しながら、より実効性の高い活動へとつなげてまいります。

技術の進化は非常に速く、世界では新しい挑戦が次々に生まれています。私たちも挑戦を続けながら、未来につながる取り組みを着実に進めていくことが重要です。MISAとしても、地域と産業の発展に貢献する活動を引き続き推進してまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多い一年となりますことを心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

賀詞交歓会概要

新春恒例の賀詞交歓会が1月16日（金）、「TKPガーデンシティ仙台」において、東北経済産業局、宮城県、仙台市、関係団体からのご来賓を含め、会員の皆様 300名弱の出席者のもと、盛大に開催されました。

まず、協会を代表して阿部会長（SRA 東北）より新年の挨拶があり、その後、ご来賓の皆様からご祝辞をいただきました。

乾杯は木村副会長（日鉄ソリューションズ東日本）

が発声し、懇談がスタート。今年の賀詞交歓会は、今までにない多くの会員の皆様にご参加いただきました。終始和やかな雰囲気の中、会員同士の情報交換や親睦を深める貴重な機会となりました。

締めくくりには、柿沼監事（コミィ）が一本締めを行い、盛況のうちに閉会となりました。ご来賓の皆様、そして多くの会員の皆様にご出席いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

来賓挨拶

宮城県企画部長 **梶村 和秀 様**



皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

また、先ほど会長のお話にもありましたとおり、宮城県情報サービス産業協会が今年発足 30 周年という節目の年を迎えられるとのこと、心よりお祝い申し上げます。会員の皆様のごこれまでのご尽力に敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展とご活躍を祈念いたします。

さて、宮城県では、全国の都道府県に先駆けて、2020年に「デジタルファースト宣言」を行いました。その後、デジタル政策を専門に担う部署を新たに設置し、村井知事を先頭に DX の推進に取り組んでいるところでございます。本日はその取り組みの一つとして、現在特に力を入れている「災害防災アプリ」についてご紹介させていただきます。

このアプリの開発の背景には、東日本大震災の経験があります。当時、避難所では多くの方が集まり、誰がどの避難所にいるのか、また避難所で何が必要とされているのか把握しづらく、大きな混乱が生じました。こうした課題を解決するため、スマートフォンを活用して避難者の状況や必要な支援物資を迅速に把握できる仕組みとして、このアプリの開発を進めてきました。

このアプリでは、避難所に避難した方の情報を把握できるほか、アンケート機能を通じて、避難所で必要とされている物資や支援内容をリアルタイムで確認することができます。例えば、水や食料、医療支援、おむつなど、現場で求められているものを迅速に把握することができ、支援の効率化につながる仕組みとなっています。

現在、このアプリの登録者数は、県民約 222 万人の

うち約 80 万人に達しております。県としては、まずは 100 万人の登録を目標に、さらなる普及を進めているところです。その一環として、現在新規登録をしていただいた方には、県内約 2,300 店舗で利用できる 3,000 円分のポイントを付与する取り組みも実施しております。防災対策の強化と地域経済の活性化を両立させる取り組みとして進めているものです。

さらに、仙台市や大崎市でもこの取り組みに連携していただき、地域経済対策として応援チケットを配布する事業が開始されています。例えば仙台市では 3,000 円分、大崎市では 5,000 円分の支援が行われており、県のポイントと合わせると、仙台市民の方は 6,000 円分、大崎市民の方は 8,000 円分を地域の店舗で利用することが可能となります。まだ登録されていない方には、ぜひこの機会にご登録いただき、地域の店舗をご利用いただければと考えております。

このほか、宮城県では来年度の当初予算に向けて、DX に関するさまざまな事業を検討・構築しているところです。これらの取り組みを進めるにあたっては、ICT 分野を担う皆様のご理解とご協力が不可欠であります。宮城県情報サービス産業協会の会員の皆様のお力をお借りしながら、地域の DX 推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、本日の賀詞交歓会が盛会となりますことをお祝い申し上げますとともに、皆様のみますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶

東北経済産業局地域経済部長 **古谷野 義之 様**



皆様、新年明けましておめでとうございます。ただいまご紹介いただきました東北経済産業局地域経済部長の古谷野でございます。本日は宮城県情報サービス産業協会の賀詞交歓会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

貴協会におかれましては、地域の情報サービス産業の発展に長年にわたり多大なご尽力をされてこられましたことに、心より敬意を表します。また、これまで協会を支えてこられた皆様のリーダーシップは、東北地域の未来を切り拓く大きな原動力となっております。改めて深く感謝申し上げます。

まず政府の経済政策について申し上げます。現在政府では、強い経済の実現を目指し、17の戦略分野を柱とした「日本成長戦略」や「地域未来戦略」の策定に向け、本格的な議論が進められています。日本経済は、投資拡大と生産性向上による成長型経済への移行を目指す重要な局面にあり、今まさにその分岐点にあると認識しております。

このような中、東北地域に目を向けますと、地域経済を牽引してきた半導体産業では大規模な投資が進んでいます。またモビリティ分野では、自動車産業に加え、航空・宇宙関連など新たな分野への参入も見られるなど、産業の広がりが生まれています。さらに、風力発電や地熱発電といった再生可能エネルギー分野についても高い潜在力があり、今後の成長が期待されています。こうした地域の強みを次世代につなぐ原動力としていくため、産業界の皆様と連携しながら着実に取り組みを進めていきたいと考えております。

また、成長型経済への移行という観点では、成長志向を持つ企業や中堅企業の活躍にも注目しております。昨年、中小企業庁では飛躍的な成長を目指す企業を対象とした「100億宣言」の取り組みを開始しました。東北管内では現在100社を超える企業が宣言を行っており、新たな付加価値の創出や良質な雇用の拡大につながることが期待されています。こうした動きは地域経済にとって非常に心強いものであると考えております。

さらに、物価上昇を上回る賃上げの実現や適切な価格転嫁の推進も重要な課題です。本年1月1日には、いわゆる「取引適正化」に関する制度の整備が進められ、サプライチェーン全体で付加価値を高めながら、構造的な価格転嫁を進めていく環境整備が図られています。当局としても、こうした取り組みをしっかりと後押ししてまいりたいと考えております。

さて、企業の成長と地域経済の発展にとって、デジタル化やDXの推進は不可欠です。当局では「TOHOKU DX大賞」を実施しており、今年で5年目を迎えます。これまでの応募事例を振り返りますと、一昨年はノーコードツール、昨年はAIやRPA、そして今年は生成AIと、技術のトレンドの変化が見て取れます。経営課題が多様化する中で、デジタルツールの選択肢も広がっており、地域企業が自らの課題に適したソリューションを選択し活用していくことが一層重要になっています。皆様には引き続き、地域のDX推進役としてご活躍いただくことを期待しております。

また、人材育成についても重要な課題です。政府が進めるデジタル田園都市国家構想では、2022年から2026年までの5年間で230万人のデジタル人材を育成することを目標に掲げています。そのためには、文系・理系を問わず多くの若者がデジタルやITに興味を持ち、その裾野を広げていくことが重要です。

その取り組みの一環として、東北学院大学において当局と宮城県が連携し、2026年度後期からIT企業が講義を行う産学連携講座を開設する予定です。宮城県情報サービス産業協会の会員企業の皆様にもご協力をいただきながら、若者が地元で働きたいと思える環境づくりと、地域におけるデジタル人材育成を進めていきたいと考えております。

結びに、強く豊かな東北地域の経済を実現する一年となりますこと、そして宮城県情報サービス産業協会の皆様のますますのご発展を心より祈念申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

来賓挨拶

仙台市経済局次長 **瀧澤 孝二** 様



MISA 会員企業の皆様、関係者の皆様、明けましておめでとうございます。仙台市経済局の瀧澤でございます。本日は盛大な賀詞交歓会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

また、本年は宮城県情報サービス産業協会が設立 30 周年という大きな節目を迎えられるとのこと、心よりお祝い申し上げます。この 30 年の間、社会情勢が大きく変化する中で、会員企業の皆様におかれましては、情報サービス産業の振興と発展に尽力されるとともに、地域経済の活性化や人材育成に多大なるご貢献をいただいております。ここに改めて深く敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

さて、本年の市政運営に関しまして、本市の郡市長は年頭の記者会見において、本年の抱負を表す漢字として「駆」という一文字を掲げました。「笑顔あふれ、世界から選ばれるまち」の実現に向け、さまざまな挑戦に果敢に取り組み、スピード感を持って駆け抜けながら未来を切り拓く一年とするという思いが込められております。

この「駆」という言葉が示すように、スピード感を持って未来志向のまちづくりを進めていくためには、AIをはじめとする先端デジタル技術の活用や DX の推進が不可欠となっております。そして、その実現には情報サービス産業を担う皆様のお力がこれまで以上に重要になるものと考えております。

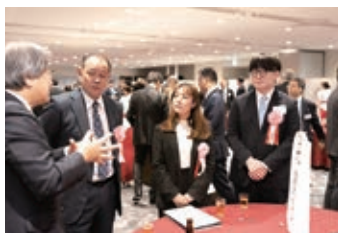
本市では、令和 6 年 3 月に策定した経済成長戦略「仙

台経済 COMPASS」において、重点プロジェクトの一つとして「DX による経済成長と暮らしやすさの向上」を掲げております。地域企業による AI やデータ利活用を通じた新規事業の創出支援や、デジタル人材の育成などの取り組みを進めており、こうした挑戦を皆様とともに加速させていきたいと考えております。

また、本年度は人材確保に向けた新たな取り組みとして、市内の大学や専門学校と連携し、キャリア形成を考える授業の中で IT 企業の皆様にご協力いただき、業界の魅力を学生に伝えるトークイベントを開催いたしました。IT 業界の仕事の魅力だけでなく、キャリア形成やライフスタイルなど幅広いテーマについてお話しいただき、学生から大変好評をいただきました。この場をお借りして、改めてご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

本市といたしましては、ここ仙台に IT 人材が定着し、地域の IT 企業の皆様からさまざまなイノベーションが生まれることで、本地域の持続的な発展につながることを期待しております。その実現に向け、会員企業の皆様をはじめ、産学官の皆様と一体となりながら多彩な取り組みを進めてまいりたいと存じます。

結びに、宮城県情報サービス産業協会のますますのご発展と、本日ご参会の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



MISA 会員向けアンケート調査結果について (2025年度)

我々情報サービス産業を取り巻く環境は、生成AIやクラウド、IoT等のデジタル技術の進展により、ビジネスそのものや経営環境が大きく変化しつつあります。このような状況の中、MISAでは、会員各社の現状やニーズを把握するため、毎年定期的にアンケート調査を実施しています。今回は126社（前年度116社）から回答をいただきました。

なお、本結果は全調査の中から抜粋して掲載しているため、詳細はMISAホームページを参照下さい。（<https://www.misa.or.jp>、本報告の設問番号は全調査の設問番号を使用）

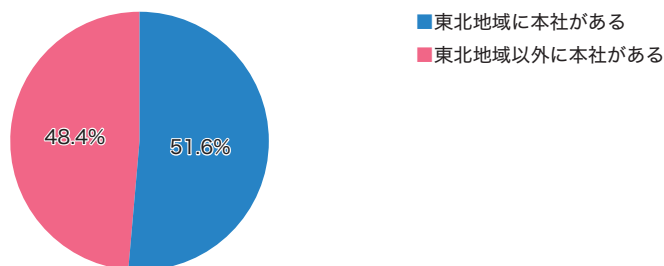
1. 調査期間：令和6年10月10日～31日
2. 目的：会員状況の定点観測、MISA関連事業への反映、施策の整合確認、活動推進に活用
3. 対象企業：MISA会員 正会員企業
4. 調査方法：アンケートフォーム（Google）や紙（Excel）による報告
5. 調査結果（概要）：

(1) 事業所の概要（相対的に小規模事業者が増）

- ・東北地域に本社がある企業が50%強。前年より10%程度減少。
- ・従業員が50名以下の企業は80%強。前年より10%程度増加。

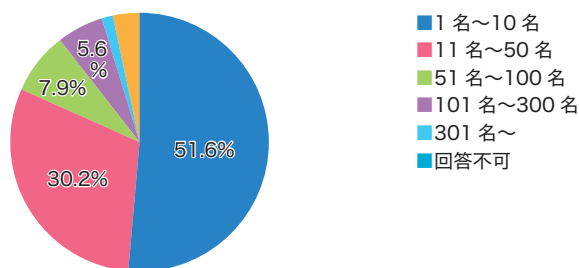
（宮城県以外の本社がある企業の小規模事務所の会員の回答が増えたか？）

設問 1-1 貴事業所の本社所在地を回答下さい。
126件の回答



東北地域に本社がある企業は、52%である。

設問 1-3 貴事業所の従業員数(正社員数)を回答下さい。
126件の回答

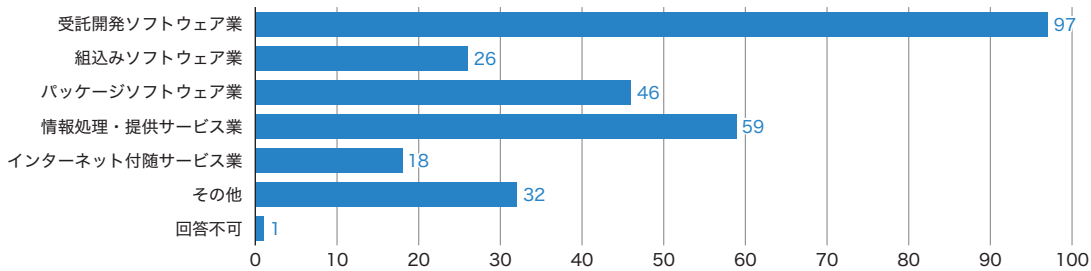


今回の調査では従業員数が50名以下の企業が81%である。

- ・会員の業種は、顧客の委託によるソフトウェア作成を行う「受託開発ソフトウェア業」がほとんど。（約97%）
- ・「受託開発ソフトウェア業」が70%以上の企業が半数（48%）である。

設問 1-4-1 貴事業所の業種を全て回答下さい。

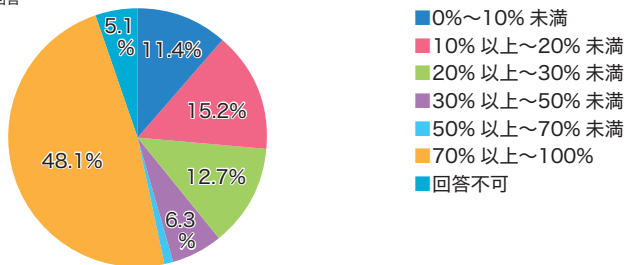
279 件の回答



顧客の委託によりソフトウェアの作成を行う「受託開発ソフトウェア業」が最も多い。

設問 1-4-3 【設問 1-4-1】で「受託開発ソフトウェア業」を選択時、売上割合を回答下さい。

79 件の回答



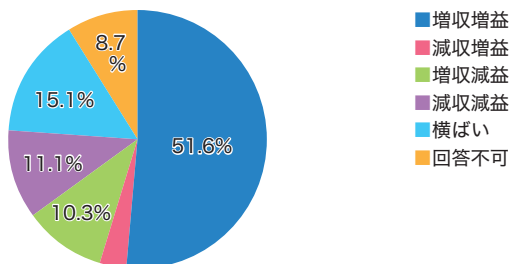
「受託開発ソフトウェア業」の売上割合が 50% 以上の企業が 49% である。

(2) 業績（売上高の増減率）

- ・「増収増益」との回答は、昨年 58%、今年度 51%。好調が継続している企業が多いが、減速気味。

設問 2-2 貴事業所の前年度と前々年度を比較した前年度の売上高の増減率を回答下さい。

126 件の回答



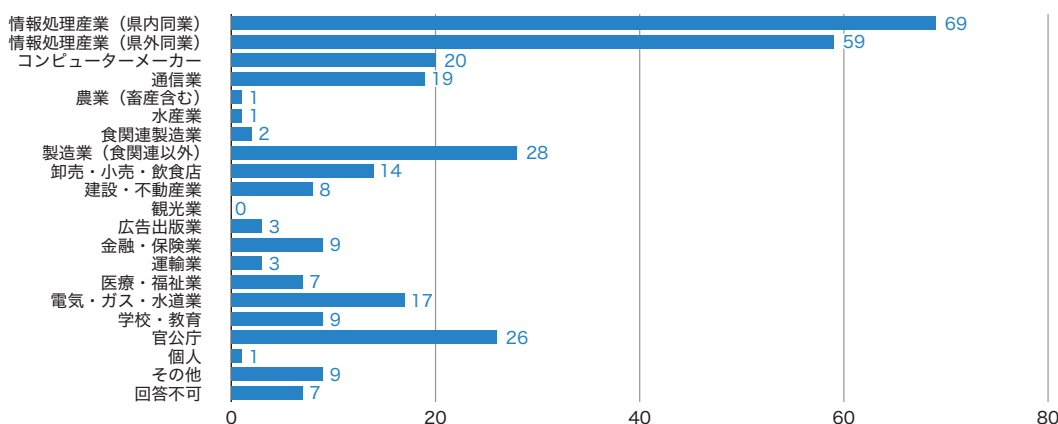
—昨年の調査では「増収増益」の回答は 52%、昨年度は 59%。今年度は 51% となった。

(3) 経営課題・成長戦略等

- ・主要な取引先は、同業者間（情報処理産業（県内、県外））が多い。（昨年と同じ）
- ・今後注力予定（拡大予定）取引先についても、同業者間（情報処理産業）が断然多い。（前年と同じ）

設問 4-1-1 貴事業所の主要な取引先の業種、売上額上位 3 つまで回答下さい。

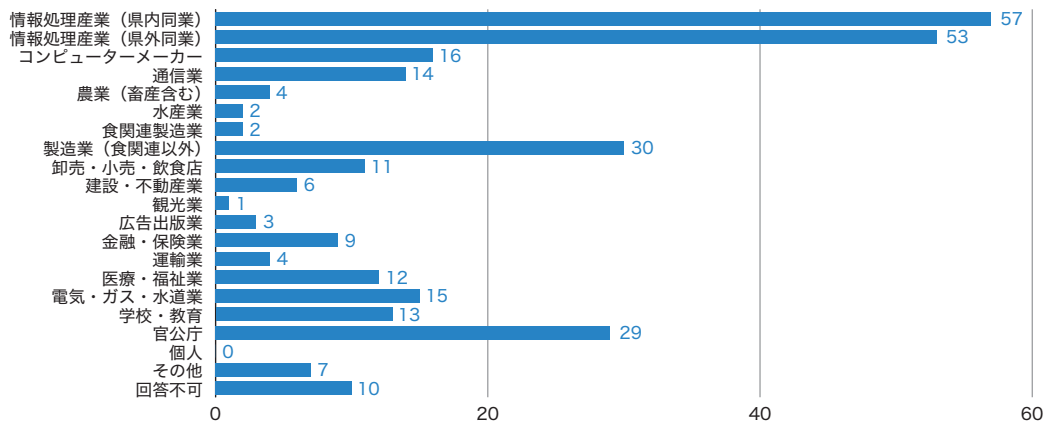
126 件の回答



「情報処理産業（県内同業）」と回答した企業が多く、次点も「情報処理産業（県外同業）」と、同業との取引が多いことが分かった。

設問 4-2-1 貴事業所が今後注力予定（拡大予定）取引先の業種、上位3つまで回答下さい。

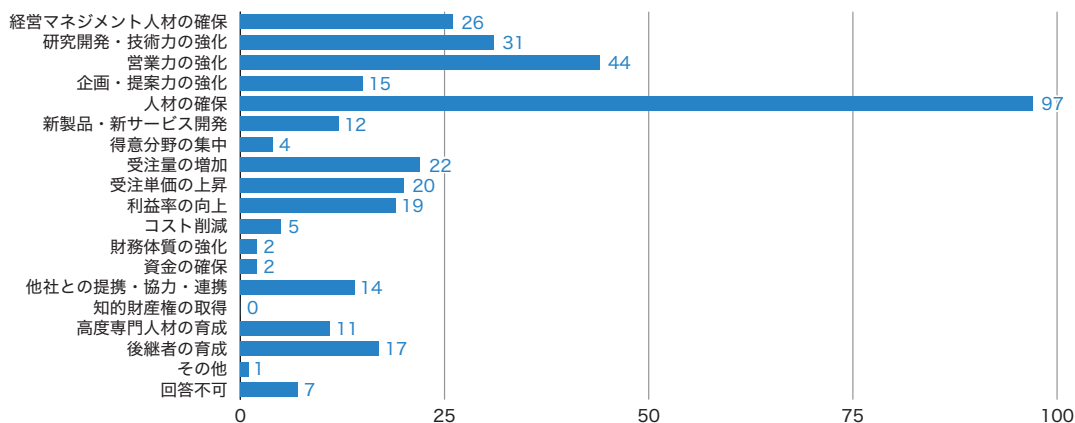
298 件の回答



- ・現在抱えている経営課題は、「人材確保」が圧倒的に多い。さらに「営業力の強化」「技術力の強化」などが続く。（前年度と同じ）

設問 4-6-1 貴事業所の現在の経営課題、上位3つまでを回答下さい。

126 件の回答

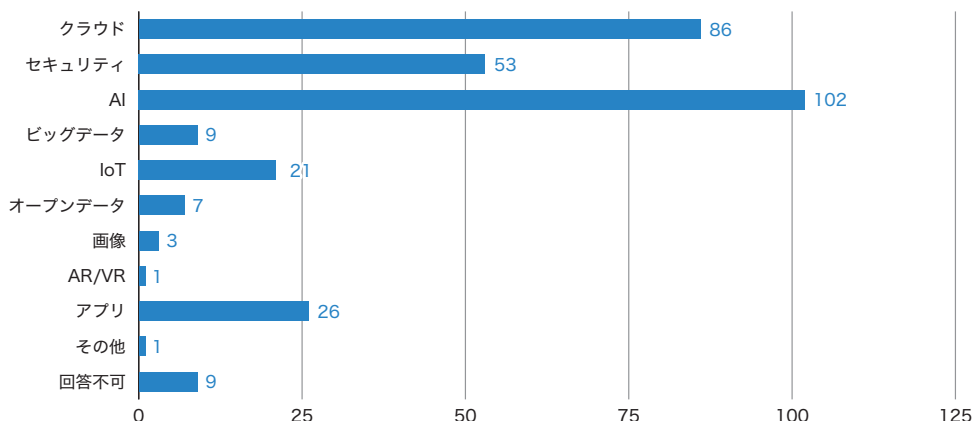


現在の経営課題としては「人材の確保」が圧倒的に多い結果となった。

- ・注目している分野は、昨年度から「AI」分野への関心が最も高い結果となった。（傾向については、前年と同じ）

設問 4-7-1 貴事業所で注目している分野、テーマ等を3つまで回答下さい。

126 件の回答

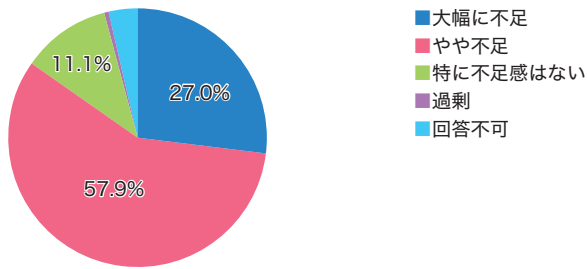


昨年度に続き、今年度も「AI」分野への関心が最も高い結果となった。

(4) 雇用・人材、採用

- ・人材不足感は、「やや不足」と回答した企業の割合が58%と最も多く、「大幅に不足」と合わせるとおよそ84%の企業が感じている。(前年と同じ)

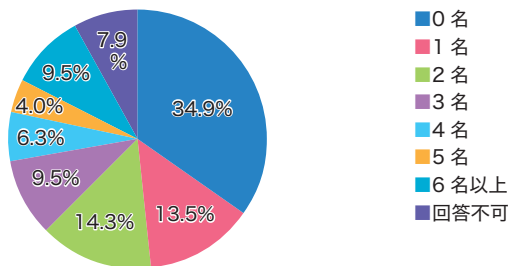
設問 5-1 貴事業所において、人材の不足感がありますか。
126 件の回答



「やや不足」と回答した企業の割合が58%と最も多く、「大幅に不足」と合わせると、およそ85%の企業が人材不足を感じている。

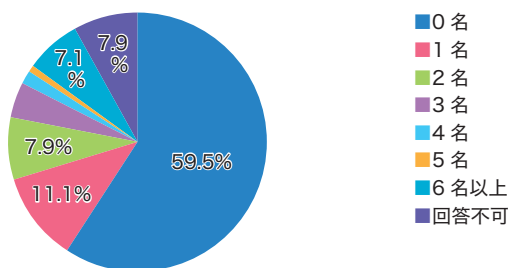
- ・今年度の新規採用は技術系で採用できない(0名)企業が60%、採用できた企業でも3名以下の企業が多い。事務系でも採用できない企業がほとんどである(85.3%)。
- ・技術系や事務系の中途採用者も、ほとんどの企業は採用ができていない。(アンケート本文参照)

設問 6-1 今年度、貴事業所の宮城県内での新卒の採用人数をご回答ください。
126 件の回答



県内での新卒の採用人数が0名の企業が多く、採用した企業では2名以下が最も多い。

設問 6-2 今年度、貴事業所の宮城県内での技術系の新卒採用は何名でしたか、ご回答ください
126 件の回答



県内での技術系の新規採用が0名の企業が多く、採用した企業は1名が最も多い。

『ICT 国際化促進カンファレンス 2026』開催

グローバル
ビジネス
委員会

グローバルビジネス委員会は、縮小する国内市場と深刻な人材不足を背景に、高度外国人材の採用・活用・定着を主テーマとして、「ICT 国際化促進カンファレンス 2026」を3月4日(水)、エル・ソーラ仙台にて開催しました。国の政策動向から企業の実践事例、行政支援制度まで多角的に議論し、基調講演1本・パネルディスカッション3本および懇親会を実施、67名が参加、会場は満席となりました。

経済産業省、宮城県、仙台市など行政機関の皆様や、(株)トレック、(株)スプラウトジャパンなど積極的に国際人材を活用しているIT企業の皆様、東北大学の登壇をはじめ教育機関からも多数ご参加いただきました。来賓として宮城県利府町長・熊谷大様(乾杯挨拶)、宮城県議会議員、韓国領事館領事にもご臨席いただき、国・県・市・町にわたる産学官連携の実現という本カンファレンスの意義をまさに体現する場となりました。

総合満足度「満足」「やや満足」合計88.2%と大変好評で、「国・県・市それぞれの取り組みを詳しく知ることができた」「外国人が活躍される生の声が聞けた」など多くのご好評をいただきました。宮城・仙台のICT産業における国際人材政策の推進にMISAとして貢献できた、大変有意義なイベントとなりました。



【プログラム】

■ 基調講演

○ 「開会のご挨拶」

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 会長 阿部 嘉男 様

○ 「日本経済：なぜ今、高度外国人材を？」

講師：経済産業省 通商政策局 貿易振興課 技術・人材協力室 室長補佐 雪田 嘉穂 様

■ パネルディスカッション①

○ 「高度外国人材採用企業の「ICTビジネス変革」

冒頭挨拶：MISAグローバルビジネス委員会 委員長 兼 株式会社Sola.com 代表取締役 高橋 洋人 様

パネリスト：株式会社トレック 代表取締役社長 柴崎 健一 様

パネリスト：株式会社スプラウトジャパン 代表取締役 山内 和彦 様

■ パネルディスカッション②

○ 「宮城・仙台で働く外国人の「なんでSENDAI/MIYAGI」

モデレーター：東北大学 キャリア・社会連携支援センター 門間 由記子 様

パネリスト：株式会社Sola.com ビシエル アレクサンダー 様

パネリスト：RefiL合同会社 環境設計部 アダム ラマン 様

パネリスト：株式会社スプラウトジャパン 過 珮慈 様

■ パネルディスカッション③

○ 「企業×行政の「この支援制度が良い！」

モデレーター：MISAグローバルビジネス委員会 副委員長 兼 株式会社ソラコムサイテック サイバーセキュリティ部 部長 Jackson Hue 様

パネリスト：経済産業省 通商政策局 貿易振興課 技術・人材協力室 畠内 陽菜 様

パネリスト：宮城県 経済商工観光部 国際政策課 中村 由紀 様

パネリスト：仙台市 経済局 産業政策部 商業・人材支援課 高橋 えりか 様

委員会報告

第49回MISA親睦ゴルフ大会

経営委員会

■開催日：2025年10月11日(土)

■場 所：西仙台カントリークラブ

第49回MISA親睦ゴルフ大会は、14組52名(内、初参加15名)が参加し、宮城の名門「西仙台カントリークラブ」にて開催しました。

当日は、雨が予想される中でのスタートとなり、後半はカッパを着用してのラウンドとなりました。雨の影響はなかったもののグリーンが難しくパッティングに苦労されていた方もいたようですが、日頃の腕前を競い合い和気あいあいと会員間の親睦を深めるゴルフ大会となりました。

【成績】(敬称略)

- 個人戦
- | | NET | HC | |
|---------|--------------|--------|------------------|
| 優勝： | 山田 孝澄 (72.0) | (24.0) | (株)シー・エス・イー |
| 準優勝： | 知念 明信 (73.2) | (22.8) | (株)シー・エス・イー |
| 第3位： | 菊田 明洋 (73.6) | (14.4) | (株)ソフトエイジ |
| 第4位： | 伴 慎矢 (73.8) | (19.2) | 日鉄ソリューションズ東日本(株) |
| 第5位： | 齋藤 滋 (74.2) | (10.8) | (株)クロスリード |
| BG(83)： | 佐々木 勇 | | (株)カーム |
- 団体戦(上位3名のNET合計)
- | 順位 | 選手名 | NET合計 |
|-----|-------------------------|---------|
| 優勝 | 知念 明信、日向 輝雄、木村 香次、遠藤 康之 | (225.0) |
| 準優勝 | 山田 孝澄、齋藤 滋、生田 和弘、阿部 匠 | (226.2) |
| 第3位 | 佐藤 英夫、河田 伸、星川 俊則、平塚 大貴 | (227.6) |



より、そう、ちから。
東北電力グループ

私たちTOINX(トイックス)は、
ITで実現する新たな価値を
社会に届け続けます。
ともに手を取りあい、
どんな時も誰よりも近くで、
しっかり支え、キッチリ守ります。
さらに、一歩踏み込んだ提案をし、
期待をこえる感動を届けます。

ITで、
感動を、
ともに。

トイックス
TOINX

株式会社トイックス

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央二丁目9番10号 セントレ東北
TEL 022-799-5555 FAX 022-799-5561

委員会報告

第23回MISA会長杯フットサル夏大会

福利厚生
委員会

第23回MISA会長杯フットサル秋大会を11月8日(土) MIFA Football Park Sendaiで開催しました。数大会ぶりの参加チーム含め、参加14チーム総勢150名と活気のある大会となりました。

結果は、日鉄ソリューションズ東日本(株)が3連覇中のテレコムリサーチを抑えて優勝しました。試合後は恒例のお楽しみ豪華抽選会、参加全チームでの集合写真を撮影し、盛況のうちに大会を終えることができました。

ご参加いただいた皆様、応援に来ていただいた皆様、有難う御座いました。引き続き皆様が安心・安全にお楽しみ頂ける楽しい大会となるよう委員会一同趣向を凝らして参ります。

次回は6月に夏大会を予定しております。人数が足りない場合は協力会社等含めた混合チーム等での参加も可能ですのでぜひ多くのチームの参加申し込みをお待ちしております。



〈全体写真〉

優 勝



日鉄ソリューションズ東日本(株)

準優勝



コンピューターマネージメント(株)

3 位



(株)テレコムリサーチ



(株)NTTデータ東北

委員会報告

MISA 真鯛釣り交流会開催

福利厚生
委員会

■開催日：2025年11月29日(土)

■大物賞

優勝：Astemo仙台(株)

鈴木 雄也 様 (太刀魚110センチ)

準優勝：テクノ・マインド(株)

遠藤 義広 様 (太刀魚105センチ)

3位：(株)アクセル・モード

斎藤 翔彩 様 (太刀魚90センチ)

■総評

前日の天気予報では強風が予想され、開催できる確率はわずか10%ほど…。それでも「なんとかしてでも開催したい!」という皆さんの思いが届いたのか、無事に大会を開くことができました。

当日は朝6時に集合し、強風でコンディションは厳しかったものの、14時までたっぷり釣りを楽しみました。岸に戻ってからの太刀魚3匹による測定は、まさにハラハラドキドキ。最終的には尾端のわずかな差で順位が決まり、大いに盛り上がりました。

優 勝



鈴木様

準 優 勝



遠藤様

3 位



斎藤様



初釣り果、ここからスタート!



優勝へ導く大物一尾



大物ワラサ、引き味最高



ワラサの同時ヒット!



太刀魚バトル、三人の結末は...



全体集合写真

委員会報告

次世代の「地財」と出会う—仙台工業高校「IT企業訪問」

人財委員会

人財委員会確保グループでは、仙台市立仙台工業高等学校が推進する「マイスターハイスクール」事業への支援の一環として、地元IT企業4社による業界説明および企業紹介を実施いたしました。当日は、同校の情報科1年生40名が4グループに分かれ、(株)エスクルー、(株)SRA東北、(株)トインクス、(株)ナナイコの各社を訪問。宮城のIT業界やITエンジニアの仕事を知っていただく機会となりました。

講師を務めた各社からは、「1年生とは思えないほどマナーが良く、頷きやメモを取る姿勢が徹底されていた」「1dayインターンに訪れる大学生と比べても意欲的で、積極的な質問が目立った」といった声が聞かれました。就職を強く意識して入学した生徒たちの「社会人基礎力」と、未知の技術への探究心は、受け入れ側にとっても得るものの多い交流となりました。

現在、IT業界において高卒採用を実施する企業は限定的であり、育成コストへの懸念から慎重な姿勢をとる企業も少なくありません。しかし、深刻な人材不足が続く中、今回の交流で目にした高校生のポテンシャルは、採用戦略を考えるうえでの新たな視点を与えてくれるものでした。

早期段階からのキャリア教育を通じ、高校生が地元IT業界を身近な選択肢として捉えることは、地域産業の持続的な発展にもつながります。当協会として、今後も高校生という次世代の人材を育み、業界の未来を担う「地財」として迎え入れる可能性を模索してまいります。



実施の様子（ナナイコ）

仙台市教育委員会
天野元教育長より
感謝状を拝受

事務局報告

2026年度 新卒者等IT実務未経験者向け研修(宮城県委託)

MISAでは「令和8年度新卒者等未経験者及び中堅層向けデジタル人材育成業務」への企画提案・採択を経て、標題研修を実施しています。本事業は県内IT企業への新卒者等の就業促進及び定着を狙いとした宮城県委託事業です。

十分なプログラミング経験のある方向けの「実務基礎コース」、プログラミング初心者または経験の少ない方向けの「技術基礎コース」の2つのコースに分けて実施しています。C言語やデータベース、Java言語などを学び、最後は2つのコース合同によるシステム開発実習を行い、研修後の各社でのOJTへ円滑な橋渡しを行います。

プログラミング未経験者が中心となる「技術基礎コース」では「AI駆動型開発」を一通り実践することで、プログラミングの基本をしっかりと学習できる独自のカリキュラムを展開しております。また、両コース共に学習活動の全てのプロセスにおいてAI活用を取り入れている点も特色となっています。研修はオンラインを主体に開催し、オンライン環境のホスト運営そのものから受講者に委ねることで、研修終了後の円滑なオンライン業務の推進にもつなげております。

受講企業は採用人数が1名～数名の小規模な地域IT

企業が中心です。こうした小規模企業の新入社員にとって、研修を通じて培われる「同業他社の同期の存在」は学習活動以上に大切であり業界への定着にも大きな役割を果たすものと考えております。

MISAでは今後も県内IT企業への就労促進のための様々な企画提案を進めていきたいと思っておりますので、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



- 開催日：2026年4月2日～6月26日（52日間）
- 場 所：オンライン研修（一部日程は集合研修）
- 受講者：11社34名 内 新卒（情報系）16名、新卒（非情報系）8名、中途10名（実務基礎コース10社18名、技術基礎コース7社16名）

MISAフォトコンテスト結果報告

MISA会報 第59号フォトコンテストに、会員12名26作品のご応募をいただきました。テーマ：「宮城の〇〇」とし、グランプリ、準グランプリ2作品と佳作8作品が決定いたしました。グランプリ作品には商品券、準グランプリ作品と佳作にはQUOカードがそれぞれ贈呈されます。

表紙に掲載

グランプリ

開業10周年を迎えた
仙台市地下鉄東西線

(株)SJC 庄子 幸太郎 様

準
グランプリ

光のランウェイ
(株)トインクス
豊川 晃聖 様



三居沢不動尊の冬
寒さで時も止まる
(有)マインドアクセス
今野 寿道 様



佳 作
(順不同)

やくらいガーデン
チューリップと菜の花畑
Astemo仙台(株)
萱場 史成 様



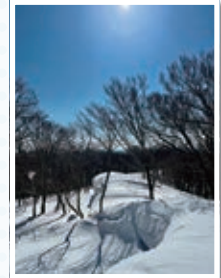
『宮城の珈琲店』
(株)インターコムR&Dセンター
鈴木 貴 様



定禅寺ジャズフェスの笑顔
(株)アジェンダST
遊佐 俊彦 様



宮城の雪稜
Astemo仙台(株)
衣袋 直哉 様



榴岡天満宮、大お多福門
(株)アート・システム
菅原 壮浩 様



雲外天地の庭
(株)トレック
柴崎 健一 様



おかえりなさい
(株)トインクス
作間 陽一 様



冬の菖蒲田浜
(株)アート・システム
鳥澤 強志 様



MISA 第15回通常総会 / MISA 創立30周年記念式典 開催のご案内

●開催日時：令和8年6月24日(水)

通常総会：14:00～15:10

記念講演会：15:20～16:30

30周年記念式典：17:00～19:00

●会場：ホテルメトロポリタン仙台 4階

会員異動状況 (令和7年10月1日以降の入会関係)

正会員-入会
賛助会員-入会

会員数 (正会員……209社 賛助会員……39社)

入会日	会員名 (代表者名)	住所 TEL・FAX
10月1日	(株)リンクアット・ジャパン (取締役 森山 康弘)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3 JMF ビル仙台 01 2F TEL 03-5733-6811 FAX 03-5733-6812
10月1日	アスノソフト(株) (代表取締役 平塚 大貴)	〒983-0002 仙台市宮城野区蒲生字北屋ヶ城 35-36 TEL 080-5222-5373
10月1日	(株)林電子 (代表取締役社長 林 祐吾)	〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-42-20 住友不動産亀戸ビル 11F TEL 03-6759-2319 FAX 03-6759-2320
10月1日	(株)マイクロメイツ (代表取締役社長 羽方 聡)	〒980-0014 仙台市青葉区本町 2-9-7 仙台 YF ビル 5F TEL 022-224-9510 FAX 022-224-9513
10月16日	(株)ファイブピット (取締役 菊池 忍)	〒980-0014 仙台市青葉区本町 2-10-33 第2日本オフィスビル 5F TEL 022-398-7024 FAX 022-398-7025
10月24日	MagTrust(株) (代表取締役社長 佐藤 博文)	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-13-25 NJ 本町ビル 5F-A TEL 022-349-5703 FAX 022-349-5704
12月1日	(株)杜乃ホールディングス (代表取締役 伊藤 正則)	〒980-0014 仙台市青葉区本町 2-3-10 KDX 本町ビル 3F
12月1日	(株)ビーレング (代表取締役 佐藤 大介)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 3-8-5 新仙台駅前ビル 901
12月8日	ソフィア(株) (代表取締役 満塩 正子)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-2-10 仙都會館 5F TEL 090-6224-5859
3月1日	(株)リンクスノード (代表取締役 齋藤 悠大)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-11-19 仙南ビル 4F-A TEL 022-200-6866
3月1日	テクノブレイブ(株) (代表取締役 濱本 左近寺)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町 2-1-2 NFM 仙台青葉通りビル 8F TEL 03-5577-3950
3月1日	(株)HAL (代表取締役社長 寺西 信夫)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 1-2-3 仙台マークワン 19F TEL 022-208-9413
3月19日	(株)アイオーエージェント (代表取締役社長 田中 遼)	〒981-0911 仙台市青葉区台原 3-38-2-106 号 TEL 022-342-8381
4月1日	TMC カスタマーサービス(株) (代表取締役社長 菅野 勝博)	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-6-1 TEL 022-295-8175 FAX 022-295-8185
4月1日	(株)BREXA Technology (新卒採用本部本部長 佐藤 康平)	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館16F TEL 03-3286-4777 FAX 03-3286-4778

(敬称略)

編集後記

今年の春は、例年より少し早足でやってきたようです。花粉も早くから舞いはじめ、つらい思いをされた方も多かったと思いますが、その分、桜も一足早く楽しむことができ、春の訪れを満喫されたのではないのでしょうか。

さて、MISAにとって今年は創立30周年という節目の年。事務局ではその記念事業の企画や準備に大わらわの毎日ですが、そんな合間を縫って、3月の暖かな日に事務所で職員全員の写真を撮影しました。せっかくの機会ですので、あらためて事務局メンバーをご紹介します。

☆庄子さん (左上)

MISAが誇る教育企画プロデューサー。協会の教育事業を支える立役者であり、まさに事務局の“稼ぎ頭”。

とはいえ、「応募者が集まらなかつたらどうしよう」と年中気を揉んでいるのもまた事実。

一方で、閉店間近のスーパーで値下げ商品を見つける嗅覚はプロ級です。

☆大澤さん (右下)

昨年7月よりMISA職員として仲間入り (前号で自己紹介済み)。中小企業支援アドバイザー業務をはじめ、MISAイベント全般を担当。

ときには事務局長代役も務める頼れる存在で、今後の活躍

が楽しみな期待の星です。ちなみに、知人ぞ知る「国際忍者学会」に所属する“伊達の忍者”でもあります。

☆白渡さん (右上)

MISAを支えて20年以上。協会のことなら隅から隅まで知り尽くす、事務局の頼れる金庫番です。

「迷ったら白渡さんに聞け」が事務局の合言葉。美味しい料理と日本酒 (もちろん他のお酒も歓迎) をこよなく愛し、旦那様との晩酌が何よりの楽しみだそうです。

☆九萬原事務局長 (左下)

この業界に学生時代から身を置き、気がつけば半世紀。変化の激しいIT業界に翻弄されながらも、なんとか泳ぎ続けてきました。

事務局では「困ったときの最後の砦 (自称)」柔軟性はあるつもりですが、理屈っぽいところが玉にきずかもしれません。

新年度も、事務局一同力を合わせ、会員の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくお願いたします。

(事務局K)

